

予防接種を受ける前に必ずお読みください。

大田原市では、風しんの予防接種を「市が行政措置として行う法定外の予防接種（※1）」と位置付け、接種費用の一部助成をします。接種を希望される方は次のことをよくお読みになり医師と相談のうえ、受けられますようお願いいたします。

助成対象となるワクチンは、風しんワクチン又は麻しん風しん混合ワクチンです。

※1 法定外の予防接種とは、希望により受けるもので法律上の義務はありません。

対象者 大田原市に住所を有する方、または、原発避難者特例法に基づき、指定市町村（※2）から住民票を移さずに大田原市に避難している方のうち、次のいずれかに該当する方

- ① 妊娠を希望している女性
- ② 妊娠中又は妊娠を希望している女性の夫（婚姻関係を問わない。）
- ③ 風しん抗体検査により抗体価が低いと判明している方で、妊娠中又は妊娠を希望している方の夫以外の同居者
- ④ 18歳以上60歳未満の男性

※2 指定市町村：いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、檜葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、川内村、葛尾村、飯館村

助成回数 …1人1回のみ

助成額 …風しんワクチンの場合 1回 2,600円
麻しん風しん混合ワクチンの場合 1回 5,200円
接種費用は医療機関によって異なります。

持参するもの …保険証、母子健康手帳（お持ちの方）、抗体検査結果（対象者③の方）

接種に当たっての注意事項

予防接種は体調の良い日に行うことが原則です。健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するかを決めてください。下記の状態の場合には予防接種を受けることができません。

《接種を受けることができない場合》

- ① 明らかに発熱（通常 37.5℃以上）がある方
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ 受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方
- ④ 明らかに免疫機能に異常がある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている方
- ⑤ 妊娠している方
- ⑥ その他、医師が不適当な状態と判断した方

《接種を受ける際に注意を要する場合》

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気及び発育障害等で治療を受けている方
- ② 予防接種で、接種後2日以内に発熱の見られた方及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常が見られた方
- ③ 接種しようとするワクチンの成分に対してアレルギーを呈する恐れのある者
- ④ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
- ⑤ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方

裏面もお読みください

接種した後の注意

- ① 予防接種を受けた後、30分程度は医療機関で様子をみましょう。
- ② 接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすらないようにしましょう。
- ③ 接種当日の激しい運動はさけましょう。
- ④ 接種後、接種した部位に異常な反応がおきた場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- ⑤ 麻しん・風しんの予防接種は生ワクチンのため、接種した日の翌日から起算して4週間は他の予防接種を受けることはできません。また、女性は接種後2か月は避妊が必要です。

予防接種による健康被害救済制度について

行政措置として行う法定外の予防接種となりますので、万が一健康被害が起きた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法及び大田原市予防接種事故災害補償規則により対応します。

風しんとは

風しんウイルスの飛沫感染によって発症します。ウイルスに感染後、約14～21日の潜伏期間があり、その後、淡い色の赤い発しん、発熱、目が赤くなる（眼球結膜の充血）、首の後ろのリンパ節が腫れるなどが主な症状として現れます。

子どもの場合、発しんも熱も3日程度で治ることが多いので「三日はしか」と呼ばれることがあります。合併症として関節痛、血小板減少性紫斑病は風しん患者の3,000人に1人、脳炎は風しん患者約6,000人に1人程度の割合で発生します。大人になってからかかると子どもの時より重症化する傾向がみられます。

妊婦が妊娠早期に風しんにかかると、「先天性風しん症候群」と呼ばれる、先天性の心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性が非常に高くなります。

麻しんとは

麻しんウイルスの空気感染によって発症します。ウイルスに感染後、約10～12日間の潜伏期間があります。主な症状は、高熱やせき、鼻汁、めやに、発疹などです。最初の3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また39℃以上の高熱と発疹が出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消えます。しばらく色素沈着が残ります。

合併症は、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などがあります。発生する割合は麻しん患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約1～6人です。脳炎は約1,000人に1人の割合で発生がみられます。

また、麻しんにかかると数年から十数年経過した後に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という重い脳炎を発症することがあります。これは、麻しんにかかった者のうち約10万人に1人の割合でみられます。麻しんにかかった人の数百人に1人程度の割合で死亡することがあります。

予防接種の効果と副反応について

【効果】

1回の接種で95%以上が免疫を獲得することができるとされています。

【副反応】

主な副反応は、発熱や発疹です。また、ときに、接種部位の発赤、腫れ、硬結（しこり）、リンパ節の腫れなどがみられることがあります。まれに生じる重い副反応としては、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難など）、血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血など）、脳炎、けいれんなどが報告されています。

問合せ先

大田原市 健康政策課 健康政策係 TEL 0287-23-8975